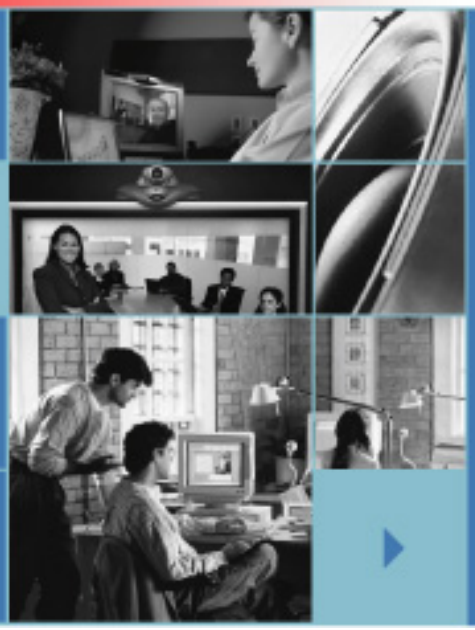


入門ガイド
VSX シリーズ
バージョン 8.5

2006 年 5 月版
3725-21292-006/A

POLYCOM®

商標情報

Polycom®、Polycom のロゴデザイン、ViewStation® は Polycom, Inc. の登録商標です。また、ImageShare™、PathNavigator™、People+Content™、PowerCam™、QSX™、SoundStation VTX 1000™、StereoSurround™、Visual Concert™、VS4000™、VSX™ は、アメリカおよびその他の諸国における Polycom, Inc. の商標です。
その他すべての商標は、それぞれの会社が所有しています。

特許情報

付随製品は、アメリカおよび諸外国の 1 つ以上の特許権によって保護されているか、Polycom, Inc による特許申請中として保護されています。

© 2006 Polycom, Inc. All rights reserved.

Polycom Inc.
4750 Willow Road
Pleasanton, CA 94588-2708
USA

この文書のいかなる部分も、Polycom, Inc. の明白な許可なしに、いかなる目的でも、電気的または機械的などのいかなる手段でも、複製または転送することを禁じます。法律の下においては、他の言語への翻訳および他のフォーマットへの変換も複製と見なされます。

当事者間で、Polycom, Inc. は、この製品に含まれるソフトウェアに関するすべてのタイトル、所有権、占有権を保有します。このソフトウェアは、アメリカの著作権および国際条約規定によって保護されています。このため、このソフトウェアは、他の著作権がある物件 (例: 本または録音物) と同様に取り扱う必要があります。

このマニュアルに含まれる情報の正確性を期すために、あらゆる努力を傾注しました。Polycom, Inc. は印刷エラーまたは事務的エラーには責任を一切負いません。この文書中の情報は、予告なしに変更することがあります。

目次

システムの基本操作 1

リモコンの使い方 1
詳しい情報の入手方法 3

通話と応答 3

ビデオ通話への応答 3
ビデオ通話の発信 3
ビデオ通話の終了 5
発信できるビデオ通話のタイプ 6
音声のみの通話の発信と音声のみのサイトの追加 7
音声のみの通話の終了 8

表示方法の制御 8

カメラやその他のビデオソースの選択と調整 8
カメラプリセットの設定と使い方 10
フルスクリーンビデオ画面とホーム画面の切り替え 11
PIP の表示、移動、非表示 11
自動カメラトラッキングの有効化 (PowerCam Plus のみ) 13

音声の制御 14

音量の調整 14
マイクのミュート 14
ビデオ通話でのステレオ音声の使用 14

資料とビデオソースの表示 15

コンピュータからの資料の表示 15
書画カメラ、VCR、DVD プレイヤーの使用 18

ディレクトリのエントリに関する操作 18

ディレクトリの検索 19
ディレクトリエントリの追加、編集、削除 19
ディレクトリエントリの分類 20
グローバル ディレクトリ エントリのリフレッシュ 21

複数サイトによる多地点通話 22

多地点通話について 22
多地点通話の発信 23
外部 MCU 通話用のパスワードの入力 24
多地点表示モードについて 24
多地点通話に対するシステムの応答方法の設定 25
多地点通話での議長機能の使用方法 26

応答方法の変更 28
一時的な着信拒否 28
通話への自動応答 28
自動応答時の通話のミュート 29
通話のスケジュール設定 29
ビデオ通話での SoundStation VTX 1000 音声会議システムの使用 30
SoundStation VTX 1000 音声会議システムを使用してビデオ通話を発信 30
SoundStation VTX 1000 音声会議システムを使用してビデオ通話にサイトを追加 30
SoundStation VTX 音声会議システムを使用した通話の音声をミュート 31
SoundStation VTX 1000 音声会議システムによる音声のみの通話に画像を追加 31
通話の終了 31
音声のみの参加者との通話の終了 32
ビデオ通話での Avaya ネットワーク機能の使用 32
ビデオ通話での Microsoft LCS 機能の使用 33
Microsoft LCS 連絡先の追加および削除 33
Microsoft LCS 連絡先状況の表示 34
会議のストリーミング配信 34
ストリーミングの開始 34
ストリーミングの視聴 35
ワークスペースのカスタマイズ 35
こちら側のカメラの制御を相手側に許可 35
PIP 表示タイミングの指定 36
通話接続時の相手側サイト名の表示 36
ダイヤル時の入力確認音の設定 37
照明の調整 37
カメラの輝度設定 (VSX 3000 のみ) 38
システムのカラースキームの変更 38
デュアルモニターエミュレーションの有効化 38
VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用 39
ビデオ会議のヒント 40
会議を成功させるためのヒント 40
画像の品質を上げるためのヒント 40
音声の品質を上げるためのヒント 41
コンテンツ表示のヒント 41

入門ガイド
VSX シリーズ

Polycom® VSX™ システムを使って会議に参加すると、会議室で行われる会議に出席するのとほとんど変わらないことがおわかりいただけます。VSX システムを使用すると、現地に赴くことなく世界各地の人々と会議を行うことができます。また、資料共有用のソフトウェア、書画カメラ、VCR、DVD を使って、通話中に情報を共有することもできます。

このガイドでは VSX の概要について説明しているため、ビデオ会議の初心者だけでなく、すでに使い慣れているユーザーが操作方法をすばやく確認しなければならない場合にも役立ちます。

VSX は、組織内で使用するオプションのみを表示するようにカスタマイズできます。そのため、お使いのシステムで、このガイドで説明されているいくつかのオプションが使用できない場合があります。これらのオプションについては、社内の VSX システムの管理者に問い合わせてください。

このガイドでは、次のモデルの使用方法を説明します。

VSX セット トップシステム	VSX コンポーネント システム	役員室に最適な デスクトップモデルの VSX 3000

システムの基本操作

リモコンの使い方

通話の発信、音量の調節、画面のナビゲーション、およびオプションの選択は、リモコンを使って行います。

テキストを入力する必要がある場合は、携帯電話と同じ要領でリモコンの数字ボタンを使用します。たとえば、"b" を入力するには 2 のボタンを 2 回押します。また、**[キーボード]** ボタンを押してオンスクリーンキーボードを表示し、文字を入力することもできます。

VSX シリーズのリモコン

詳しい情報の入手方法

VSX システムの使い方に関する詳しい情報が必要な場合は、次の方法で入手してください。

- システムの使用中にヘルプを表示するには、リモコンの **[ヘルプ]** ボタンを押します。
- ネットワークに関する質問は、システム管理者に問い合わせてください。
- システムに関する質問は、www.polycom.com/support の Polycom テクニカルサポートに問い合わせてください。

通話と応答

ビデオ通話への応答

VSX システムでは、次のいずれかの方法で受信通話に応答できます。

- 通話に手動で応答するように指示するメッセージが、システムから表示される。
- 着信した通話にシステムが自動的に応答する。

通話が着信すると着信音が鳴り、呼び出し元の番号とメッセージが表示されます。発信者がシステムのディレクトリに登録されている場合は、発信者の名前も表示されます。

通話に手動で応答するには、次の操作を行います。

➢ リモコンの **[通話開始]** ボタンを押します。

通話に自動応答するように設定されているシステムでは、自動的に接続されます。

画面に **[こちら側]** が表示されているときは、こちら側のマイクがミュートされています。マイクのミュートを解除するには、リモコンの **[ミュート]** ボタンを押します。VSX セットトップシステムおよび VSX コンポーネントシステムでは、マイクのボタンを押すこともできます。

ビデオ通話の発信

このシステムでは、次の方法でビデオ通話を発信できます。

- 名前または番号を入力する
- 以下からサイトを選択する
  - [最近の通話] リスト
  - [主要通話先] リストまたは [短縮ダイヤル] リスト
  - ディレクトリ

名前または番号を入力して発信する

名前または番号を入力して通話を発信するには、次の操作を行います。

1. ダイヤル入力フィールドにダイヤル情報を入力します こちら側のシステムと通話先のシステムの機能に応じて、ダイヤル情報は次のいずれかの例のように表示されます。
   - 10.11.12.13 (IP アドレス)
   - 2555 (内線番号)
   - stereo.polycom.com (DNS 名)
   - Ascot Conference Room (システム名)
   - 19784444321 (ISDN 番号)
2. 通話に必要なその他の情報を入力します。利用できる設定は、次に示すように通話のタイプとシステムの設定に依存します。すべての通話でこれらの設定が必要になるわけではありません。
   - **通話品質** - この通話の帯域または通話タイプを指定する。ほとんどの通話では **[自動]** を選択します。これにより、通話に最適な品質がシステムによって判断されます。
   - **2 番目の ISDN 番号** - 相手側から指示があった場合に限り、番号を 2 つ使用する。
   - **ゲートウェイ内線番号** - 内線番号をダイヤルする必要がある場合、2 番目の入力フィールドに内線番号を入力する。2 番目の入力フィールドが利用できないように設定されているシステムの場合は、ゲートウェイからメッセージが表示されたときに、内線番号を入力できます。
3. リモコンの **[通話開始]** ボタンを押して通話を発信します。

   通話が進行中であることを示す通話進行インジケータが、画面に表示されます。通話が接続されると、インジケータが緑になります。

[最近の通話] リストから発信する

最近の通話先の一覧から、通話する番号を選択することもできます。[最近の通話] 画面には、通話時間を含め、すべての受信通話と発信通話に関する詳細が表示されます。

[最近の通話] 画面から通話を発信するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[最近の通話]** を選択します。
2. 通話先のエントリまでスクロールします。
3. **[通話開始]** ボタンを押して、通話を発信します。

[最近の通話] 画面に一覧表示されている通話の詳細を表示するには、通話をハイライトしてリモコンの **[ヘルプ]** ボタンを押します。
リモコンの 1 ～ 9 のキーを押すと、一覧を並べ替えられます。**[ヘルプ]** ボタンを押して **[ヘルプ]** を選択すると、並べ替えのオプションが表示されます

[主要通話先] または [短縮ダイヤル] リストから発信する

特定のサイトのダイヤル情報については、ホーム画面の［短縮ダイヤル］リストまたは［主要通話先］リストからアクセスできます。

［短縮ダイヤル］または［主要通話先］リストを使用して通話を発信するには、次の操作を行います。

1. 必要に応じて、ホーム画面から **[短縮ダイヤル]** または **[主要通話先]** を選択します。
2. 通話先のエントリまでスクロールします。
3. **[通話開始]** ボタンを押して、通話を発信します。

ディレクトリからの通話を発信する

ディレクトリは、VSX システムにローカルに保存されているサイトの一覧です。システムがグローバルディレクトリに登録されている場合は、グローバルディレクトリからのエントリもディレクトリに含まれます。

ディレクトリから通話を発信するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. 通話先のエントリを選択します。
3. **[通話開始]** ボタンを押して、通話を発信します。

ディレクトリの使用方法の詳細については、18 ページの「ディレクトリのエントリに関する操作」を参照してください。

システムの設定によっては、ISDN と IP の両方のダイヤル情報が入ったエントリを使用して通話を発信するときに、どちらを使って通話するかを確認するメッセージが表示される場合があります。

ビデオ通話の終了

通話を終了するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[通話終了]** ボタンを押します。
2. 通話を終了してもよいことを確認します。

通話を終了してもよいことを確認しなかった場合、システムは 60 秒後に自動的に接続を終了します。

発信できるビデオ通話のタイプ

購入した V500 システムのモデルに応じて、ISDN 通話や IP 通話、SIP 通話、V.35 通話を発信できます。

次の表に、可能な通話の組み合わせを示します。

こちら側のネットワーク	相手側のネットワーク	ダイヤルする番号
ISDN	ISDN	電話番号。
	IP	相手側ゲートウェイの電話番号と、相手側の内線番号 (E.164 アドレス)。 ゲートウェイ番号の後に内線番号を追加するか、ゲートウェイからメッセージが表示されたときに内線番号を入力します。
LAN	同一 LAN	エイリアス、E.164 アドレス、IP アドレスのいずれか。
	異なる LAN	こちら側のゲートウェイのアクセス番号、選択したスピードコード、相手側のゲートウェイの ISDN 番号、および相手側の内線番号 (E.164 アドレス)。 ゲートウェイ番号の後に内線番号を追加するか、ゲートウェイからメッセージが表示されたときに内線番号を入力します。
	ISDN	こちら側のゲートウェイのアクセス番号、選択したスピードコード、および相手側の ISDN 番号。

内線番号 (E.164 アドレス) を必要とするゲートウェイを介して IP システムを呼び出すときは、できるだけダイヤル時に内線番号を入力します。ダイヤル時に入力する内線番号の区切り文字については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。たとえば、ネットワークの中には IP アドレスと内線番号の区切りに ## を使用しているものがあります。

内線番号を入力することで、通話の終了時に電話番号と内線番号の両方をディレクトリに保存できるようになります。ゲートウェイの接続後に内線番号を入力した場合は、通話の終了時にゲートウェイ番号しか保存できません。

音声のみの通話の発信と音声のみのサイトの追加

VSX システムでは、音声のみの通話を発信したり、ビデオ会議に音声のみの通話を追加することができます。この設定では、次のような操作が可能です。

- システムを一般の電話と同じように使用する。
- ビデオ通話に音声のみの参加者を追加する。
- 音声のみの通話にビデオ通話を追加する。

会議室に VTX 音声会議システムを統合した SoundStation VSX 1000™ ビデオ会議システムを設置している場合は、他の音声オプションも利用できます。

SoundStation VTX 1000 音声会議システムの使用方法の詳細については、30 ページの「ビデオ通話での SoundStation VTX 1000 音声会議システムの使用」を参照してください。

音声のみの通話を発信する

アナログ電話または ISDN 経由の音声通話が可能な VSX システムから、音声のみの通話を発信できます。

システムから音声のみの通話を発信するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面で、通話先の番号を入力します。
   - PBX システム内で通話を発信するには、番号の末尾 4 桁を入力します。
   - 数字を削除するには、リモコンの **[削除]** ボタンを押します。
2. **[通話開始]** ボタンを押して、通話を発信します。

音声のみの通話をビデオ通話に追加する

ビデオ通話の接続後に音声のみの通話を追加するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[通話開始]** ボタンを押します。
2. [通話終了] 画面で **[テレビ通話の追加]** を選択します。
3. リモコンの数字ボタンで、ビデオ通話に追加する音声通話参加者の電話番号を入力します。
4. リモコンの **[通話開始]** ボタンを押します。
5. 音声通話が接続されたら、**[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押してビデオ会議に戻ります。

ビデオ通話を音声のみの通話に追加する

通話中の音声のみの通話にビデオ通話を追加することができます。

音声のみの通話の接続後にビデオ通話を追加するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面で、通話先の番号を入力します。
2. **[通話開始]** ボタンを押して、通話を発信します。

音声のみの通話の終了

音声のみの通話を終了するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[通話終了]** ボタンを押します。
2. [通話終了] 画面で音声のみのサイトを選択して通話を終了します。

音声通話の相手が先に通話を終了したときは、こちら側でも VSX システムの通話を切断する必要があります。これは、一般の電話で受話器を置くのと同じことです。

表示方法の制御

こちら側のカメラを調整して、自分が提示する資料を会議参加者に見せることができます。カメラやその他のビデオソースは、会議の開始前でも会議中でも調整できます。

カメラやその他のビデオソースの選択と調整

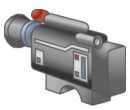
メインカメラや、その他のこちら側または相手側のビデオソース（書画カメラ、コンピュータ、VCR、DVD プレイヤーなど）は、リモコンで選択できます。

このほか、リモコンを使用すると VSX セットトップシステムおよびコンポーネントシステムのメインカメラを調整できます。VSX 3000 システムを使用している場合は、メインカメラのパン、チルト、ピント調整は手動で行う必要があります。また、パン/チルト/ズーム動作をサポートする補助カメラや相手側のカメラを調整することもできます。

相手側のカメラ設定をこちら側から制御できるように設定されている場合のみ、相手側のカメラを調整できます。

こちら側または相手側のカメラやその他のビデオソースを選択するには、次の操作を行います。

1. 通話中の場合は、**[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押して、こちら側または相手側のカメラかビデオソースを選択します。画面上のアイコンは、選択可能な対象を示します。

	このアイコンが表示されると、こちら側のカメラまたはビデオソースを制御できます。
	このアイコンが表示されると、相手側のカメラまたはビデオソースを制御できます。

2. リモコンの **[カメラ]** ボタンを押します。その後、こちら側または相手側で選択するカメラかビデオソースの番号を押します。たとえば、メインカメラを選択する場合は **1** を押します。

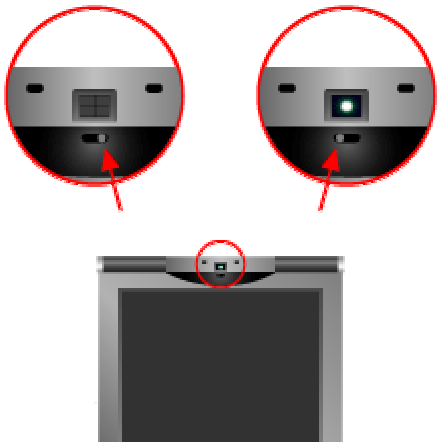
   選択したカメラまたはビデオソースからの画像が画面に表示されます。

リモコンでカメラを調整するには、次の操作を行います。

1. **[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押して、こちら側または相手側のカメラを選択します。
2. リモコンの矢印ボタンを押して、カメラを上下左右に動かします。
3. **[ズーム]** ボタンを押して、カメラをズームインまたはズームアウトします。

VSX 3000 システムのプライバシーシャッターを開け閉めするには、次の操作を行います。

- スライダーを右に動かすとプライバシーシャッターが閉じ、左に動かすと開きます。プライバシーシャッターが閉じていても通話の発着信はできますが、こちら側の映像は相手側に表示されません。



VSX 3000 システムのカメラを調整するには、次の操作を行います。

- フォーカスダイヤルを回してカメラのピントを合わせます。

カメラプリセットの設定と使い方

カメラプリセットとは、保存したカメラの向きのことです。プリセットは、通話の発信前でも通話中でも設定できます。

プリセットを利用して、次のことができます。

- 室内のあらかじめ設定した位置にカメラを自動的に向ける。
- VCR、DVD プレイヤー、書画カメラ、補助カメラなどのビデオソースを選択する。

システムのメインカメラが電子パン/チルト/ズームをサポートしている場合、こちら側のカメラの向きのプリセットは最大 100 か所まで設定できます。それぞれのプリセットには、カメラ番号、ズームレベル、カメラを向ける方向（可能な場合）が保存されています。こちら側のプリセットの設定は、VSX セットトップシステムおよびコンポーネントシステムで利用できます。設定は、削除または変更しない限り有効です。

機能によっては、相手側のカメラを制御することもできます。相手側カメラの制御が許可されている場合は、相手側カメラのプリセットを 16 か所まで設定することができます。このプリセットが保存されるのは、通話を行っている間のみです。相手側で設定されたプリセットを使用することもできます。

カメラをプリセット方向に向けるには、次の操作を行います。

1. 通話が接続されている場合は、**[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押して、こちら側または相手側のカメラかビデオソースを選択します。
2. リモコンの数字を押します。

   カメラがプリセットの方向に向くか、他のビデオソースに切り替わります。

こちら側のプリセットを表示するには、次の操作を行います（VSX セットトップシステムおよびコンポーネントシステムの場合）

➢ リモコンの **[プリセット]** ボタンを押します。

プリセット 0 ～ 9 のアイコンが画面に表示されます。色の付いたアイコンは保存済みのカメラの向き、灰色のアイコンは利用できるプリセットを表します。

プリセットを保存するには、次の操作を行います。

1. 通話中の場合は、**[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押して、こちら側または相手側のカメラかビデオソースを選択します。
2. 電子パン/チルト/ズームをサポートするカメラを選択した場合は、次の手順でカメラの向きを調整できます。
   - リモコンの矢印ボタンを押して、カメラを上下左右に動かします。
   - **[ズーム]** ボタンを押して、カメラをズームインまたはズームアウトします。
3. リモコンの **[プリセット]** ボタンを押します。
4. プリセットを保存する番号をしばらく押し続けます。2 桁の番号にプリセットを保存する場合は、1 桁目の数字を押してから、2 桁目の数字をしばらく押し続けます。選んだ番号にすでにプリセットが保存されている場合は、新しいプリセットに置き換えられます。

   システムのプリセット 0 には、カメラのデフォルト位置が設定されています。

すべてのプリセットを解除するには、次の操作を行います。

1. 通話が接続されている場合は、**[こちら側]** ボタンを押して、こちら側のビデオソースを選択します。
2. リモコンの **[プリセット]** ボタンを押します。
3. **[削除]** ボタンを押すと、すべてのプリセットが削除されます。

プリセットを 1 つだけ削除することはできません。削除したいプリセットには、新しいプリセット位置を設定してください。

フルスクリーンビデオ画面とホーム画面の切り替え

通話が接続される前は、こちら側の画像が [通話の発信] (ホーム) 画面の小さいウィンドウに表示されます。通話が接続されると、自動的に画像がフルスクリーンで表示されます。通話中、たとえばシステム設定で許可されたユーザー設定の調整をする必要があるときなどは、[通話の発信] 画面に切り替えることができます。

ユーザー設定の調整の詳細については、35 ページの「ワークスペースのカスタマイズ」を参照してください。

画像をフルスクリーンで表示する場合

➢ リモコンの **[こちら側]** ボタンを押します。

[通話の発信] 画面を表示する場合

➢ リモコンの **[ホーム]** ボタンを押します。

PIP の表示、移動、非表示

子画面 (PIP) を表示するようにシステムを設定できます。シングルモニターシステムでの通話中には、こちら側から相手側へのメインカメラの送信画像が PIP に表示されます。(これにより、必要に応じてカメラを調整することが可能になります)。通話に参加している相手側のサイトの 1 つが何らかの資料を提示すると、その資料が画面のメイン部分に表示され、PIP は相手側の参加者の画像に切り替わります。

デュアルモニターシステムでの通話中に各モニターと PIP に表示される画面は、VSX システムの設定に応じて異なります。

通話中に PIP を表示または移動したり非表示にしたりするには、次の操作を行います。

- ❑ リモコンの **[PIP]** ボタンを押すと、画面に PIP が表示されます。
- ❑ PIP に黄色い枠が表示されている状態で **[PIP]** ボタンを繰り返し押すと、PIP が画面内の別の角に移動します。
- ❑ 少し時間を置き、PIP の枠が青になります。その後に **[PIP]** ボタンを押すと、PIP が非表示になります。

PIP とメイン画面に表示されるビューを入れ替えるには、次の操作を行います。

1. PIP が表示されていない場合は、リモコンの **[PIP]** を押して PIP を画面に表示します。
2. **[カメラ]** ボタンを押し、**[PIP の入れ替え]** アイコンを選択します。

デュアルモニターエミュレーション機能を使用したコンテンツなしの通話では、リモコンの [PIP] ボタンを押すと次の画面レイアウトをスクロールできます。

1. こちら側と相手側を同じサイズで並べて表示

2. 相手側を大きく、こちら側を小さく表示

3. こちら側を大きく、相手側を小さく表示

4. こちら側をフルスクリーン表示

5. 相手側をフルスクリーン表示

最後に表示された画面レイアウトが、次回の通話時に使用されます。

自動カメラトラッキングの有効化 (PowerCam Plus のみ)

Polycom PowerCam Plus™ カメラを搭載した VSX 7000e または VSX 8000 を使用している場合は、カメラが自動的に発言者に向くか、発言者に最も近いプリセット位置に移動するように設定できます。この方法は、会議の参加者が着席しているか、決まった位置からあまり移動しないと予想される場合にのみ使用します。

自動カメラトラッキング機能は、こちら側の音声がミュートされたとき、相手側が発言しているとき、および Polycom StereoSurround™ が有効になっているときは無効になります。

発言者に対して自動カメラトラッキング機能を有効にするには、次の操作を行います。

1. **[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押して、こちら側または相手側のカメラを選択します。
2. "自動カメラトラッキング" と表示されるまで **[自動]** を押します。

カメラのプリセット位置に対する自動ボイストラッキング機能を有効にするには、次の操作を行います。

1. **[こちら側]** ボタンまたは **[相手側]** ボタンを押して、こちら側または相手側のカメラを選択します。
2. "プリセット位置へ自動カメラトラッキング" と表示されるまで **[自動]** を押します。

   カメラのアイコンが に変わり、カメラのプリセット位置に対する自動ボイストラッキング機能が有効になったことが示されます。

カメラのプリセット位置に対する自動ボイストラッキング機能を無効にするには、次の操作を行います。

- "自動カメラトラッキングを解除" と表示されるまで **[自動]** を押します。

  自動トラッキングは、カメラのパン、チルト、ズーム動作を使用しても解除できます。

音声の制御

音量の調整

スピーカーから聞こえる音量を調整するには、リモコンを使用します。音量の調整は、こちら側で聞こえる音量にのみ有効です。

音量を調整するには、次の操作を行います。

➢ **[音量]** ボタンを押します。

VSX 3000 システムをビデオ会議に使用しているときは、リモコンで音量を調節します。VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用しているときは、システム前面の音量ボタンで音量を調節します。

マイクのミュート

相手側にこちら側の音声を聞かれたくない場合は、マイクをミュートすることができます。たとえば、個人的な話をするときなどにマイクをミュートします。

マイクをミュートしたり、ミュートを解除するには、次の操作を行います。

➢ リモコンの **[ミュート]** ボタンを押します。

Polycom マイクを使用する VSX セットトップシステムおよびコンポーネントシステムでは、マイクの ボタンを押して通話の音声をミュートすることもできます。

マイクをミュートしても、相手側に送信される VCR や DVD プレイヤーからの音声はミュートされません。

ビデオ通話でのステレオ音声の使用

ビデオ会議を実施する部屋がステレオ音声の使用に対応している場合、どちらのマイクが左でどちらが右かは、システムのセットアップ時に設定されています。マイクの位置は動かさないでください。ステレオ効果が低下する原因になります。

ステレオ音声が利用できるのは 256 Kbps 以上のビデオ通話のみです。

資料とビデオソースの表示

相手側サイトには、以下のものを表示できます。

- コンピュータに保存された情報
- 書画カメラの上に置いた印刷文書や実物
- ビデオテープまたは DVD

一度に共有できる資料またはビデオソースは 1 種類ですが、必要に応じて別の種類の資料またはビデオソースに切り替えることができます。相手側の参加者も、資料やビデオソースを共有できます。

コンピュータからの資料の表示

VisualConcert™ VSX 装置を接続した VSX セットトップシステム、または ImageShare™ II 装置を接続した VSX コンポーネントシステムでは、コンピュータを接続してそこに保存された資料を表示できます。VSX システムに QSX™ システムを接続すれば、ビデオ機能を持たない会議参加者 10 名までとインターネット接続により資料を共有できます。詳細については、『Polycom QSX の管理者用ガイド』を参照してください。また、People+Content™ IP と呼ばれるアプリケーションを利用すれば、ハードウェアを追加せずに資料を表示できます。

VSX システムで Polycom People+Content IP オプションを有効にして、コンピュータにこのソフトウェアアプリケーションをインストールすると、ネットワークに接続した任意の Windows XP または Windows 2000 を搭載したコンピュータから資料を表示できます。ケーブルや特別なハードウェアは必要ありません。必要なものは、VSX システムの IP アドレスだけです。VSX システムで People+Content IP を有効にする方法については、社内の VSX システムの管理者に問い合わせてください。

People+Content IP は画像のみの資料に対応しています。音声は共有できません。

コンピュータが LAN に接続されている場合は、ネットワーク上の場所から資料を共有することもできます。コンピュータから資料を共有すると、こちら側のコンピュータ画面と同じ内容が相手側に表示されます。

People+Content IP を使用して資料を表示する

コンピュータに People+Content IP アプリケーションをインストールするには、次の操作を行います。

1. Windows XP または Windows 2000 を搭載したコンピュータで Web ブラウザを開き、www.polycom.com にアクセスします。
2. People+Content IP アプリケーションを Polycom Resource Center からダウンロードしてインストールします。

資料の表示を開始するには、次の操作を行います。

1. コンピュータで、Polycom People+Content IP アプリケーションを起動します。
2. ビデオ会議システムの IP アドレスとパスワード (設定されている場合) を入力します。
3. **[接続]** ボタンをクリックします。

4. 表示する資料を開き、次のいずれかを実行します。
   - People+Content IP で をクリックする。
   - ビデオ会議システムのリモコンの **[グラフィックス]** ボタンを押す。

VSX システムにコンテンツソースが接続されているとき、リモコンの **[グラフィックス]** ボタンを押すと使用するコンテンツソースを選択するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

資料の送信中には、 資料共有アイコンがメインモニターに表示されます。システムの設定によっては、自分のモニターやプロジェクタにも資料が表示される場合があります。

資料の表示を停止するには、次の操作を行います。

1. People+Content IP のツールバーが最小化されている場合は、タスクバーのアイコンをクリックして最大化します。
2. 次のいずれかを実行します。
   - People+Content IP で をクリックする。
   - ビデオ会議システムのリモコンの **[グラフィックス]** ボタンを押す。
3. 会議の別の参加者が People+Content IP を使用して同じ VSX システムから資料を送信する場合は、**[切断]** を押して VSX システムから切断し、別の参加者が接続できるようにします。一度に接続できるコンピュータは 1 台だけです。

VisualConcert VSX または ImageShare II を使用した資料の表示

資料を表示する前に、コンピュータの画面解像度およびリフレッシュレートが、次のいずれかに設定されていることを確認します。

解像度	リフレッシュレート (Hz)
640 x 480	60, 72, 75, 85
800 x 600	60, 72, 75, 85
1024 x 768	60, 70, 75, 85
1280×1024 (1024×768 形式に縮尺して相手側に送信)	60

解像度とリフレッシュレートを設定するには、コンピュータの [画面] コントロールパネルに移動します。

VisualConcert VSX を使用して資料の表示を開始するには、次の操作を行います。

1. コンピュータを Visual Concert VSX 装置に接続します。

Visual Concert VSX 装置の使用方法の詳細については、www.polycom.com/videodocumentation から入手できる『VisualConcert VSX クイックヒント』を参照してください。

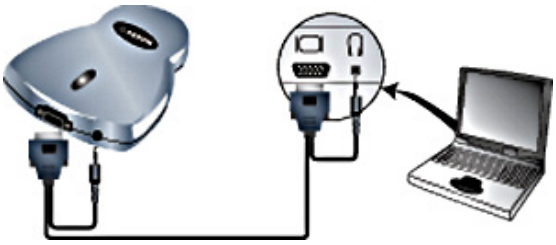
2. Visual Concert VSX の ボタン、リモコンの **[グラフィックス]** ボタン、 **[カメラ]** ボタンのいずれかを押します。

VisualConcert VSX を使用した資料の表示を停止するには、次の操作を行います。

➢ Visual Concert VSX の ボタン、リモコンの **[グラフィックス]** ボタン、 **[カメラ]** ボタンのいずれかを押します。

ImageShare II を使用して資料を表示するには、次の操作を行います。

1. コンピュータを ImageShare II 装置に接続します。



2. 青い ImageShare 選択ボタンを押して、資料の表示を開始/停止します。

書画カメラ、VCR、DVD プレイヤーの使用

すべての VSX システムで、書画カメラ、VCR、DVD プレイヤーなどからのさまざまな種類の情報を、通話中の相手側に表示することができます。

通話を開始する前に、次の手順を実行します。

1. 書画カメラ、VCR、DVD プレイヤーのいずれかが接続され、電源が入っていることを確認します。システムに付属しているセットアップシートを参照してください。
2. ドキュメントまたは被写体を書画カメラの前に置くか、ビデオテープや DVD を挿入します。

通話中にドキュメント、被写体、ビデオテープ、DVD の表示を開始するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[カメラ]** ボタンを押します。
2. ビデオソースを選択します。
3. リモコンの ボタンを押します。

通話中にドキュメント、被写体、ビデオテープ、DVD の表示を停止するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[カメラ]** ボタンを押します。
2. メインカメラを選択します。
3. リモコンの ボタンを押します。

ディレクトリのエントリに関する操作

VSX システムのディレクトリには、通話をすばやく開始するためのダイヤル情報が保存されています。ディレクトリに登録されているサイトがこちら側のシステムにダイヤルすると、着信時にそのサイトの名前が表示されます。ダイヤルしてきたサイトがディレクトリに登録されていない場合は、通話の終了時に、連絡先情報をディレクトリに登録するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

グローバル ディレクトリ サーバーに登録されているシステムの場合、ディレクトリには次の 2 種類のエントリが含まれます。

- **ローカルエントリ:** 追加したサイトに関する情報。ローカルエントリは、ローカルの VSX システムに保存され、システムの設定によってはユーザーが削除や編集を行えます。ローカルエントリをカテゴリごとに分類し、番号を検索しやすくすることもできます。ローカルエントリは、このシステムを使用するすべてのユーザーが利用できます。
- **グローバルエントリ:** 同じグローバル ディレクトリ サーバーに登録されている、アクティブな他サイトに関する情報。グローバルエントリはグローバル ディレクトリ サーバーに保存され、編集することはできません。変更したい場合は、ローカルコピーを作成します。

  利用可能なグローバルエントリは マークで示され、オフラインのエントリは マークで示されます。

ディレクトリの検索

ディレクトリのエントリは次のような方法で検索できます。

- リモコンの数字ボタンを使用して名前を入力する
- **[キーボード]** ボタンを押してオンスクリーンキーボードを表示し、名前を入力する
- **[上矢印]** ボタンと **[下矢印]** ボタンを使用して、一覧に表示されている名前をスクロールする
- **[拡大]** ボタンと **[縮小]** ボタンを使用して、一覧に表示されている名前をページ単位で表示する
- アルファベットのタブを使用してディレクトリ内を移動し、名前をスクロールする

ディレクトリエントリの追加、編集、削除

1 地点通話や多地点通話用のエントリを作成し、VSX システムのディレクトリに保存することができます。自分が作成したエントリは、同じシステムを使用する他のユーザーも使用できます。同様に、他のユーザーが作成したエントリを自分が使用することもできます。ローカルエントリの情報は、いずれも編集可能です。こちら側のシステムのローカルエントリに、他のサイトのユーザーがアクセスすることはできません。

1 地点通話用のエントリをディレクトリに追加するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. **[新規]** を選択し、1 つのサイト用の情報であることを指定します。
3. 次の情報を指定します。

フィールド	入力する情報
システム名	ディレクトリ一覧と受信通話メッセージに表示される名前
番号	このサイトとの通話に使用する ISDN 番号
通話品質	このサイトとの ISDN 通話に使用する通話速度
IP アドレス	このサイトとの通話に使用する IP アドレス
内線番号	システムのゲートウェイ内線番号
通話品質	このサイトとの IP 通話に使用する通話速度
音声電話番号	会議室内の他のリソースに対する連絡先情報 (オプション)
携帯電話番号	
電子メール	
カテゴリ	ディレクトリで番号を簡単に検索できるようにするための分類

4. **[保存]** を選択してエントリを保存します。

複数サイト用のエントリをディレクトリに追加するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. **[新規]** を選択し、複数のサイト用の情報であることを指定します。
3. 次のいずれかの方法で、この多地点通話用のエントリに番号を追加します。
   - ディレクトリからエントリを選択する
   - 手動でエントリを追加する

   追加できるサイト数は、こちら側のシステムの機能によって異なります。
4. 通話の速度を指定します。多地点会議では、通話はいずれも同じ速度で発信されます。
5. **[保存]** を選択してエントリを保存します。
6. エントリの名前を入力します。この名前がディレクトリー覧に表示されます。

エントリを編集するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. 編集するエントリまでスクロールして、**[編集]** を選択します。
3. 必要に応じて情報を編集します。
4. **[保存]** を選択して変更を保存し、ディレクトリに戻ります。

エントリを削除するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. 削除するエントリまでスクロールして、**[削除]** を選択します。

ローカルディレクトリのエントリは削除できますが、グローバルディレクトリのエントリは削除できません。

ディレクトリエントリの分類

ローカルエントリをグループに分類すると、ディレクトリ全体ではなく、カテゴリ内のエントリだけを検索できるため、通話情報を見つけやすくなります。

新しいグループを作成するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. **[グループ]** を選択します。
3. **[カテゴリの編集]** を選択します。
4. グループ名を入力します。
5. リモコンの **[戻る]** ボタンを押して、新しいグループを保存します。

グループを削除するには、次の手順に従います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. **[グループ]** を選択します。
3. **[カテゴリの編集]** を選択します。
4. 削除するグループ名までスクロールして、**[削除]** を選択します。

グループを削除すると、そのグループに含まれるエントリもすべて削除されます。グループ内のエントリを残したい場合は、グループを削除する前に、エントリに新しいグループを割り当ててください。

エントリをグループに割り当てるには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. グループに割り当てるエントリまでスクロールして、**[編集]** を選択します。
3. **[次へ]** をクリックして、**[カテゴリ]** を選択します。
4. **[保存]** を選択して変更を保存し、ディレクトリに戻ります。

グローバル ディレクトリ エントリのリフレッシュ

グローバル ディレクトリ エントリは、グローバル ディレクトリ サーバーに登録されているシステムにあり、定期的にリフレッシュされます。お使いのシステムで手動によりリフレッシュすることもできます。

グローバル ディレクトリ エントリを手動でリフレッシュするには、次の手順に従います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. 画面の右上角にある赤い Polycom のロゴにカーソルを移動します。

画面の右上角に赤い Polycom のロゴが表示されない場合、お使いのシステムはグローバル ディレクトリ サーバーに登録されていません。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。

3. ロゴをクリックして、**[リフレッシュ]** を選択します。

複数サイトによる多地点通話

多地点会議に参加するようシステムを設定できます。多地点会議では、多地点会議ユニット (MCU) によって表示するサイトを切り替えられるため、会議参加者は常に発言者を画面に表示しながら話を聞くことができます。また、1 地点通話の場合と同様に、多地点通話でも資料を共有できます。

VSX 5000 システムおよび VSX 6000 システムは、多地点通話に参加するために使用できますが、多地点通話を開始することはできません。

多地点通話について

VSX システムでは、外部 MCU または内蔵 MCU オプションを利用して多地点通話を発信することができます。次の表に示すように、会議の形態は MCU のタイプによって異なります。

MCU のタイプ	参加できるサイト数	サポートされる通話	サイトを追加するタイミング
内蔵 MCU	こちら側のサイトも含め、最大 4 か所の画像サイトの参加 (VSX 8000 の場合は最大 5 か所)	• IP • ISDN または V.35 • SIP • IP および ISDN/V.35 の両方 • SIP および ISDN/V.35 の両方 **メモ:** 同一通話内で IP と SIP を使用することはできません。	通話の開始前と通話中
外部 MCU	MCU で許容されるサイト数	• IP • ISDN または V.35 • SIP • IP および ISDN/V.35 の両方 **メモ:** 同一通話内で IP と SIP を使用することはできません。	通話の開始前と通話中 (通話中は MCU と会議のタイプによる)

内蔵 MCU オプションを使用する通話では、VSX システムから通話を開始するか、あるいは他のサイトから VSX システムに通話を発信するによって、会議に参加します。

多地点通話の発信

多地点通話を発信する方法は、内蔵 MCU オプションを使用するか外部 MCU を使用するかによって異なります。Polycom の PathNavigator™ を使用している場合は、PathNavigator のオンデマンド会議機能を使って多地点通話を発信することもできます。

- 内蔵 MCU オプションを使用する通話の場合は、一度にすべてのサイトを呼び出せるように、多地点通話用のディレクトリエントリを定義しておくことができます。また、最初に 1 つのサイトに通話を発信し、その通話が接続されてから他のサイトを追加することもできます。
- 外部 MCU を使用する通話の場合は、通話が始まる前に、すべてのサイトの通話情報を入力する必要があります。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。
- 内蔵 MCU を搭載している VSX 3000、VSX 3000A、VSX 7000、VSX 7000s、VSX 7000e システム では、最大で 4 か所の画像サイトおよび 1 か所の音声サイトとの多地点通話を行うことができます。VSX 8000 では、最大で 6 か所の画像サイトと 1 か所の音声サイトとの多地点通話ができます。
- PathNavigator のオンデマンド会議機能を使用して通話を実施する場合、システム管理者は次の作業を行う必要があります。
  - VSX システムを PathNavigator に登録する。
  - PathNavigator を使用して多地点通話を実施するように、VSX システムを設定する。
  - ディレクトリ内に多地点通話用のエントリを作成する。

通話にサイトを追加して多地点通話を発信するには、次の操作を行います。

1. 最初のサイトを呼び出します。
2. 通話が接続されたら、リモコンの **[通話開始]** ボタンを押します。
3. **[ビデオ通話の追加]** を選択し、次のサイトに通話を発信します。
4. すべてのサイトが接続するまで、手順 2 と 3 を繰り返します。

多地点通話用のディレクトリエントリを使って多地点通話を行うには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[ディレクトリ]** ボタンを押します。
2. ディレクトリ内で多地点通話用のエントリを検索します。
3. **[通話開始]** ボタンを押して、通話を発信します。

カスケード接続の多地点通話を発信するには、次の操作を行います。

1. ディレクトリから多地点通話を発信するか、最大 3 か所までの他の画像サイトに個別に通話を発信します。
2. 相手側の各サイトに、それぞれ別の 2 か所までのサイトに通話を発信するように依頼します。

外部 MCU 通話用のパスワードの入力

外部 MCU では、会議に参加するためにパスワードの入力が求められる場合があります。システムの設定によっては、ミーティングパスワードが自動入力されるようにすることもできます。

ミーティングパスワードを設定するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. 次のいずれかの方法で **[ミーティングパスワード]** フィールドにパスワードを入力します。
   - 携帯電話と同じテキスト入力の要領でリモコンの数字ボタンを押す
   - **[キーボード]** ボタンを押してオンスクリーンキーボードを表示し、文字を入力する
4. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

プッシュ回線 (DTMF トーン) 信号を生成する必要がある場合には、リモコンの # を押してから、リモコンのキーパッドを使用します。

多地点表示モードについて

多地点通話中は、システムは各サイトを特定の方法で表示するように設定されます。たとえば、すべてのサイトを同時に表示したり、発言しているサイトのみを表示することができます。

次の表で、各多地点表示モードについて説明します。多地点通話中に表示される画面は、VSX システムの設定、参加するサイト数や共有内容などの要因によって異なります。

設定	説明
自動 	サイト間のやりとりに応じて、ディスカッションモードとプレゼンテーションモードを自動的に切り替えます。 • 複数のサイトが同時に発言しているときは、ディスカッションモードですべての発言者を表示します。 • 1 人が約 15 秒間遮られることなく発言すると、プレゼンテーションモードに切り替わり、すべてのサイトで発言者が大きく表示されます。
ディスカッション 	こちら側のサイトを含む、すべてのサイトを同時に表示します。このモードは、コンティニュアス プレゼンス モードとも呼びます。 **システム構成:** — **表示:** シングルモニター — 1 台のモニターに画面を分割してすべてのサイトを表示します。 デュアルモニター — 2 台めのモニターに発言者を表示し、1 台めのモニターにその他すべてのサイトを表示します。または、各モニターに 1 か所の相手側のサイトを表示します。

設定	説明
プレゼンテーション 	各サイトでは発言者を表示します。発言者のサイトでは画面を分割して全てのサイトを同時に表示します。 発言者のサイトでは、1 台めのモニターの画面を分割した個別のウィンドウに、すべてのサイトが同時に表示されます。 **システム構成:** **表示:** シングルモニター 発言者をフルスクリーンで表示します。 デュアルモニター 1 台目のモニターに発言者を表示し、2 台目のモニターにこちら側を表示します。
フルスクリーン 	通話に参加しているすべてのサイトで、発言者をフルスクリーンで表示します。

多地点通話に対するシステムの応答方法の設定

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[自動応答 (多地点)]** フィールドまでスクロールして、次のいずれかを選択します。

設定	操作
いいえ	通話に手動で応答します。 通話を受信すると着信音が鳴り、通話を受け付けるか拒否するかを確認するメッセージが表示されます。
はい	着信通話に自動的に応答します。 通話を受信すると着信音が鳴り、通話が接続されます。
着信拒否	着信通話を拒否します。 呼び出し側には話し中の信号音が聞こえます。受信通話に関する通知は、こちら側に送られません。

多地点通話での議長機能の使用方法

多地点通話で議長機能を使用し、人物画像の切り替えを制御できる場合もあります。このタイプの通話では、議長機能を保持しているサイトが、会議に参加しているどのサイトの画像を他のサイトに送信するかを決められます。また、議長機能を保持しているサイトは、他のサイトを切り離したり、会議を終了させることもできます。どの参加サイトも、特定のサイトを表示したり、自分のサイトの画像を送信したり、議長機能を要求することができます。

議長機能を保持できるのは、一度に 1 つのサイトのみです。議長機能は、現在それを保持しているサイトが返却してからでなければ、別のサイトが取得することはできません。

議長機能が利用できるかどうかは、使用している MCU のタイプおよび通話に参加しているシステムによって決まります。

MCU のタイプ	議長機能を使用するための条件
内蔵 MCU	通話が次のシステムで構成されている。 • IP、ISDN、または IP と ISDN の両方で接続された VSX システム、ViewStation® EX、ViewStation FX、VS4000™ システム • ISDN 接続のみの他社製システム
外部 MCU	外部 MCU によって許可されます。

多地点通話中に議長機能オプションを使用するには、次の操作を行います。

1. コンピュータ上で Web ブラウザを開きます。
2. ブラウザのアドレス行にシステムの IP アドレス（例: 「http://10.11.12.13」）を入力し、テレビ会議システムの Web インターフェースにアクセスします。
3. **[通話の発信]** をクリックします。
4. **[チェアコントロール]** をクリックして [チェアコントロール] 画面に移動します。

[チェアコントロール] オプションは、多地点通話中のみ利用できます。カスケード接続の多地点通話では利用できません。

5. リストからサイトを選択し、Web インターフェースのコントロールを使って次のいずれかの操作を行います。

サイトの立場	可能な操作	選択するオプション
議長	チェアコントロールを指定したサイトに渡す。	**議長権の返却**
	指定したサイトの画像を表示する。この画像は、**[サイト表示の停止]** を選択するか、議長権を返却するまで有効です。	**サイトの表示**
	議長または MCU によって選択された画像表示に戻す。	**サイト表示の停止**
	こちら側の画像を他のサイトに送信する。	**こちらからブロードキャスト**
	指定したサイトの画像を他のサイトに送信する。	**ブロードキャスターの指名**
	指定したサイトを会議から切り離す。	**指定サイトの切離し**
	すべてのサイトを切断し、通話を終了する。	**会議の終了**
参加者	議長機能を要求する。	**議長権の獲得**
	指定したサイトの画像を表示する。この操作では、他のサイトの表示は変わりません。	**サイトの表示**
	議長または MCU によって選択された画像表示に戻す。	**サイト表示の停止**

応答方法の変更

システム管理者の設定によっては、受信通話の処理方法をユーザーが選択できる場合もあります。

一時的な着信拒否

通話を受けたくない場合は、着信拒否機能で受信通話を拒否することができます。呼び出し側には話し中の信号音が聞こえます。受信通話に関する通知は、こちら側に送られません。ただし、通話の発信は可能です。

受信通話を一時的に拒否するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面で、画面の右下角にある を選択します。
2. **[オン]** を選択して、[着信拒否] に設定します。

システムが呼び出しを拒否している間は、画面の右下角に が表示されます。この設定は変更するまで有効です。

ホーム画面の [主要通話先] リストで自分の通話状況を **"応答可"** または **"応答不可"** に設定すると、[通話の発信] 画面が表示されていれば、その画面の [受信拒否] アイコンも変更されます。同様に、[通話の発信] 画面の [受信拒否] アイコンを変更すると、ホーム画面の [主要通話先] リストの自分の通話状況も変更されます。

通話への自動応答

システムの設定によっては、自動応答と、通話が着信したことをユーザーに通知して手動で応答が行われるまでシステムを待機させる方法があります。

自動応答の設定は便利ですが、セキュリティ上の問題を引き起こすことがあります。たとえば、急な通話で会議が中断されたり、無人の会議室に残された機器やメモが相手側から覗かれる恐れがあります。

相手側に会話がたまたま聞こえてしまうことを防ぐため、自動応答による通話をすべてミュートしておくことができます。

通話への自動応答を設定するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. 1 地点通話に自動応答する場合は、**[自動応答（1地点)]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押して、**[はい]** を選択します。
4. 多地点通話に自動応答する場合は、**[自動応答（多地点)]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押して、**[はい]** を選択します。

5. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用している場合は、通話への応答を手動で行うようシステム設定することをお勧めします。

システムをコンピュータモニターとして使用している場合は、通話が着信すると着信音が鳴ります。このとき、ビデオ画像に切り替えると、手動で通話に応答できます。通話は無視することもできます。無視した場合、通話は接続されないので、発信側からこちら側の様子を見られたり、音声を聞かれたりすることはありません。

自動応答時の通話のミュート

システムの設定によっては、通話に自動応答するようにシステムが設定されている場合は、通話接続時に音声をミュートにするかどうかの選択もできます。ミュートを選択すれば、相手側に会話や会議の内容が聞こえるのを防止できます。接続が完了してミュートを解除してもよい状態になったら、 **[ミュート]** ボタンを押します。

通話中にミュートを有効にしても、現在の会議の音声には影響しません。

自動応答通話をミュートするには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[自動応答時ミュート]** までスクロールしてリモコンの ボタンを押し、オプションを有効にします。
4. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

通話のスケジュール設定

カレンダー機能と通話スケジュール機能を使用して、ビデオ会議をスケジュール設定することができます。この機能を使って通話のスケジュールを設定すると、指定した日時にシステムから自動的に通話が発信されます。定期的な通話には、自動通話発信を "毎日"、"毎週"、"毎月" のいずれかに設定できます。

通話のスケジュールを設定するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーティリティ]** を選択します。
3. [ユーティリティ] 画面で **[通話スケジューラ]** を選択します。
4. [通話スケジューラ] 画面で **[新規エントリ]** を選択します。
5. ディレクトリを選択し、ダイヤル先のエントリ（1 地点または多地点）を選択します。
6. ダイヤルする日時を選択します。
7. **[次へ]** を選択し、定期的な会議かどうかを指定します。

スケジュール設定した日時に、VSX システムから指定されたサイトに自動的に通話が発信されます。

通話のスケジュールをカレンダーで確認するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーティリティ]** を選択します。
3. [ユーティリティ] 画面で **[カレンダー]** を選択します。

カレンダーでは、通話がスケジュール設定されている日付に小さい緑の三角が表示されます。

ビデオ通話での SoundStation VTX 1000 音声会議システムの使用

VSX ビデオ会議システムには、SoundStation VTX 1000 音声会議システムを組み合わせて使用することができます。この構成では、ビデオ会議システムと音声会議システムを組み合わせて、ビデオ通話や音声のみの通話を発信したり、管理することができます。システムが正しく設定されていれば、音声会議システムのディスプレイに “VSX OK” と表示されます。

SoundStation VTX 1000 音声会議システムを使用してビデオ通話を発信

VSX ビデオ会議システムおよび SoundStation VTX 1000 が連携するように設定されている場合は、音声会議システムを使ってビデオ通話を発信できます。

SoundStation VTX 1000 電話を使用してビデオ通話を発信するには、次の操作を行います。

1. SoundStation VTX 1000 音声会議システムをオンフックにしておきます。
2. 音声会議システムのキーパッドを使用して、次のいずれかを入力します。
   - VSX システムの ISDN 番号 (例: 19784444321)
   - VSX システムの IP アドレス (例: 10.11.12.13)
3. 音声会議システムの **[VID CALL (VID の発信)]** ソフトキーを押して通話を発信します。

SoundStation VTX 1000 音声会議システムを使用してビデオ通話にサイトを追加

SoundStation VTX 音声会議システムを使用して、ビデオ通話に画像サイトや音声のみのサイトを追加できます。

画像サイトや音声のみのサイトを追加するには、次の操作を行います。

1. SoundStation VTX 音声会議システムまたはビデオ会議システムを使用して最初のサイトにビデオ通話を発信します。
2. 音声会議システムで追加するサイトの番号を入力します。
   - 画像サイトをダイヤルする場合は、番号を入力して **[VID CALL (VID の発信)]** ソフトキーを押します。
   - 音声のみのサイトを追加する場合は、番号を入力して電話のキーパッドの **[電話]** ボタンを押します。

ビデオ通話に音声のみのサイトを追加した後は、SoundStation VTX 1000 音声会議システムを使用して音量を調整します。

SoundStation VTX 音声会議システムを使用した通話の音声をミュート

SoundStation VTX 音声会議システムのミュートボタンを使用すると、ビデオ通話の音声をミュートできます。

SoundStation VTX 1000 音声会議システムを使用した通話の音声をミュートするには、次の操作を行います。

➢ 次のいずれかを実行します。

- 音声会議システムの **[ミュート]** ボタンを押す。
- リモコンの **[ミュート]** ボタンを押す。

音声がミュートされているときは、音声会議システムの赤いインジケータが点灯します。また、モニターにはこちら側のミュートアイコンも表示されます。

SoundStation VTX 1000 音声会議システムによる音声のみの通話に画像を追加

SoundStation VTX 音声会議システムを統合した VSX 音声会議システムが相手側でも使用されている場合は、SoundStation VTX 1000 音声会議システム間での音声通話中に、音声のみの通話からビデオ通話に切り替えることができます。

音声通話に画像を追加するには、次の操作を行います。

1. こちら側の SoundStation VTX 音声会議システムから相手側の音声会議システムに通話を発信します。
2. 音声通話が接続されたら、音声会議システムの **[ADD VIDEO (画像の追加)]** ソフトキーを押します。

通話に画像が追加されると着信音が鳴ります。このビデオ通話では、SoundStation VTX 音声会議システムをマイクとして使用します。

通話の終了

SoundStation VTX 1000 音声会議システムを統合した VSX システムで通話を終了するには、次の操作を行います。

音声会議システムから:

➢ 電話の **[END VIDEO (画像の終了)]** ソフトキーを押します。

- 会議が 1 地点のビデオ通話の場合は、直ちに通話が終了します。
- 会議が多地点のビデオ通話の場合は、モニターに **[VSX Hang Up (VSX 通話終了)]** 画面が表示されます。この場合は、切断するサイトを選択します。

VSX システムから:

1. VSX のリモコンの **[通話終了]** ボタンを押します。
2. VSX の [通話終了] 画面で次のいずれかを実行します。
   - 通話を終了するサイトを選択する。
   - すべてのサイトとの通話を終了する場合は、**[すべての通話終了]** を選択する。

音声のみの参加者との通話の終了

会議には、ビデオ通話参加者と音声のみの参加者の両方を含めることができます。通話中に音声のみの参加者が通話を終了した場合は、その通話を会議から切断する必要があります。これは、一般の電話で受話器を置く操作に相当します。

音声のみの通話を切断するには、次の操作を行います。

1. リモコンの **[通話終了]** ボタンを押します。
2. 多地点通話の場合は、**[通話終了]** 画面で **[VTX Conference Phone (VTX 音声会議システム)]** を選択して音声回線を切断します。

こちら側でビデオ通話を終了させたり、音声のみのサイトが通話を終了させたりしても、こちら側のシステムから音声通話を終了させる必要があります。VSX システムで音声のみの通話を切断しない場合は、会議中に電話からトーンが聞こえます。

ビデオ通話での Avaya ネットワーク機能の使用

システムの設定によっては、通話の自動転送、通話中の転送といった Avaya の電話ネットワーク機能を使用して、音声のみの会議用サイトをもう 1 つ追加できる場合があります。

通話の自動転送をアクティベートするには、次の操作を行います。

1. VSX システムが通話中でないことを確認します。
2. VSX システムの [通話の発信] 画面から、Avaya Communications Manager (ACM) の管理者から提供される機能アクセスコードをダイヤルし、続けて通話の自動転送先システムの E.164 内線番号をダイヤルします。たとえば、機能アクセスコードが *2 で、システムの E.164 内線番号が 2016 の場合には、*22016 とダイヤルします。
3. 確認音がするまで待ちます。

通話の自動転送を無効にするには、次の操作を行います。

1. VSX システムの [通話の発信] 画面から、ACM 管理者から提供される機能アクセスコードをダイヤルします。たとえば、通話の自動転送を無効にする機能アクセスコードが #2 である場合、#2 をダイヤルします。
2. 確認音がするまで待ちます。

通話中の転送を行うには、次の操作を行います。

1. 通話中に、VSX システムのリモコンの ボタンを押し、トーンパッドにアクセスします。
2. リモコンの **[ドット]** ボタンを押して、フラッシュフックを有効にします。最初の相手側システムでは通話が保留状態になります。

3. ダイヤルトーンが聞こえてから、通話を転送する相手側システムの内線番号をダイヤルします。ローカルシステムと 2 つめの相手側システムとの間で、この通話の音声と画像の両方が接続されます。最初の相手側システムは、引き続き保留状態のままです。
4. こちら側のシステムで通話を終了します。2 つの相手側システムは音声と画像を伴う 1 本の通話 (容量があれば) で接続されます。

通話にシステムを追加するには、次の操作を行います。

1. 通話中に、VSX システムのリモコンの ボタンを押し、トーンパッドにアクセスします。
2. リモコンの **[ドット]** ボタンを押して、フラッシュフックを有効にします。相手側システムでは通話が保留状態になります。
3. ダイヤルトーンが聞こえてから、通話に加えるシステムの内線番号をダイヤルします。
4. リモコンの **[ドット]** ボタンをもう 1 度押します。この通話は、参加しているすべてのシステムで音声のみの会議システムとなります。フラッシュフックをダイヤルしたシステムが通話を終了すると、その他のシステムは、音声と画像を伴った通話 (容量があれば) で接続されます。

ビデオ通話での Microsoft LCS 機能の使用

システムの設定によっては、Microsoft® の LCS (Live Communications Server) の連絡先リスト機能を使用できる場合があります。この機能を使用して LCS の連絡先リストを設定すると、連絡先がオンラインであるかどうかを確認でき、アドレスが不明でも通話を発信できます。連絡先はディレクトリに表示され、またホーム画面の [主要通話先] リストにも表示できます。

ホーム画面の [主要通話先] リストを表示している場合、**[手動通話]** を選択するか、リモコンの **[ホーム]** ボタンを押すと [通話の発信] 画面にアクセスできます。

Microsoft LCS 連絡先の追加および削除

VSX システムに表示される Microsoft LCS 連絡先を追加または削除するには、Microsoft Office Communicator または Windows Messenger を使用する必要があります。

VSX システムの LCS 連絡先を追加または削除するには、次の操作を行います。

1. コンピュータで Microsoft Office Communicator または Windows Messenger のアプリケーションを起動します。
2. VSX システムの SIP アカウント情報を使用して、起動したアプリケーションにログインします。
3. アプリケーションを使用して、VSX システムの連絡先を追加または削除します。

Microsoft LCS 連絡先状況の表示

VSX システムの各 LCS 連絡先の横に、状況アイコンが表示されます。これらのアイコンは、連絡先の状況を使用可、通話中、オフラインのいずれかで表します。

状況	VSX システムのアイコン	テレビ会議システムの状態
使用可		電源が入っており、通話ができる状態です。
通話中		電源は入っていますが、次のいずれかの原因により通話ができない状態にあります。 • 着信通話がシステムの最大数の制限に達している。 • システムが "応答不可" または "着信拒否" に設定されている。
オフライン		電源が入っていません。

会議のストリーミング配信

1 地点通話や多地点通話を Web にストリーミング配信できるように、システムを設定できます。会議をストリーミング配信すると、人数を問わず、第三者が Web ブラウザを使用して会議を視聴できるようになります。

ストリーミングの開始

1 地点通話や多地点通話を第三者が Web ブラウザを使用して視聴できるように、システムを設定できます。ストリーミングを視聴するユーザーは、ビデオ会議システムのアドレスとローカルアクセスパスワード (設定されている場合) が必要になります。

会議をストリーミング配信するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーティリティ]** を選択します。
3. [ユーティリティ] 画面で **[ウェブストリーミング]** を選択します。
4. **[ストリーミング開始]** オプションを選択してストリーミングを開始します。

ストリーミングは、ビデオ通話を発信する前でも通話中でも開始できます。

会議のストリーミング配信を停止するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーティリティ]** を選択します。
3. [ユーティリティ] 画面で **[ウェブストリーミング]** を選択します。
4. **[ストリーミング開始]** オプションをオフにしてストリーミングを停止します。

ストリーミングの視聴

会議のストリーミングを視聴する前に、次の準備が必要です。

- ❑ コンピュータに QuickTime プレイヤーをインストールする。
- ❑ 会議開催者からビデオ会議システムの IP アドレスとパスワード (設定されている場合) を取得する。

ストリーミング会議を視聴するには、次の操作を行います。

1. コンピュータ上で Web ブラウザを開きます。
2. ブラウザのアドレス行にシステムの IP アドレス (例: 「http://10.11.12.13」) を入力し、テレビ会議システムの Web インターフェースにアクセスします。
3. [View a Meeting (会議の表示)] をクリックします。
4. メッセージが表示された場合は、会議開催者から提供されたユーザー名とパスワードを入力します。

ストリーミング会議の視聴を停止するには、次の操作を行います。

- ➢ Web ブラウザを閉じます。

ワークスペースのカスタマイズ

システムの設定に従って、画面表示をカスタマイズすることができます。カスタマイズのオプションは、通話の発信前やシステムの通話中に変更できます。

こちら側のカメラの制御を相手側に許可

システムの設定によっては、相手側にこちら側のカメラの制御を許可することができます。制御を許可した場合、こちら側から送信される画像を相手側の参加者が調整できます。また、相手側の参加者がこちら側のカメラのプリセットを設定し、そのプリセットを使用することもできます。ただし、相手側のシステムでこの機能がサポートされていることが必要です。

こちら側のカメラの制御を相手側に許可するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[相手側からのカメラ制御]** までスクロールし、 ボタンを押してオプションを有効にします。
4. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

この設定の変更は、通話中であっても、ただちに有効になります。

PIP 表示タイミングの指定

システムでは通話中の PIP の動作がデフォルト設定されている場合があります。システムの設定によっては、通話の接続後に必要に応じて PIP の表示、非表示、移動を実行できます。

PIP の表示タイミングを指定するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[次へ]** を選択して、詳しい設定を表示します。
4. **[PIP]** までスクロールし、ボタンを押して、次のいずれかの設定を選択します。

設定	PIP の表示タイミング
カメラ	カメラ制御ボタンを押したとき
自動	接続時およびリモコンを使用したとき
オン	接続時および通話中
オフ	リモコンの **[PIP]** ボタンを押したときのみ

5. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

通話接続時の相手側サイト名の表示

システムの設定によっては、通話接続時に相手側の名前が表示されるようにするかどうかを指定できます。また、相手側の名前を画面に表示しておく時間も指定できます。

相手側の名前を表示するタイミングを指定するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[次へ]** を選択して、詳しい設定を表示します。
4. **[相手サイト名表示時間]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押して、通話中常に相手側の名前を表示するか、指定された時間のみを表示するか、まったく表示しないかを指定します。
5. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

ダイヤル時の入力確認音の設定

システムの設定によっては、[通話の発信] 画面のダイヤル入力フィールドに数字を入力するたびに入力確認音が流れるように、システムを設定できます。

入力確認音を有効にするには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[次へ]** を選択して、詳しい設定を表示します。
4. **[キーパッド入力確認音]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押してオプションを有効にします。
5. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

[キーパッド入力確認音] をオンにして内蔵 MCU を使用した多地点通話中に数字を入力すると、相手側にも入力確認音が流れます。相手側に番号を聞かせたくない場合は、マイクをミュートします。

照明の調整

システムの設定によっては、バックライト補正を使用して、メインカメラから VSX システムに送信される画像の輝度を調整できます。バックライト補正によってカメラの絞りが調整され、取り込む光量が下がります。室内の配置上、参加者が画面内で逆光になっている場合には、この設定を調整する必要があります。

バックライトの調整はメインカメラを対象としているため、この調整によってコンピュータや書画カメラからの資料の輝度が上がることはありません。

バックライト補正をオンにするには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[バックライト補正]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押してオプションを有効にします。
4. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

カメラの輝度設定 (VSX 3000 のみ)

システムの設定によっては、VSX 3000 システムのカメラの輝度を調整できます。バックライト補正の設定と同様に、この設定はカメラの絞りを調整します。室内が明るすぎる場合は、カメラの輝度の設定を小さくして取り込む光量を少なくします。室内が暗い場合は、カメラの輝度の設定を大きくして取り込む光量を増やします。デフォルト設定は 11 です。

カメラの輝度を設定するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[カメラの輝度]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押して、輝度のレベルを選択します。
4. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

システムのカラースキームの変更

システムの設定によっては、VSX システムの画面のカラースキームを変更できます。

カラースキームを変更するには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[次へ]** を選択して、詳しい設定を表示します。
4. **[カラースキーム]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押して、カラースキームを選択します。
5. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

デュアルモニターエミュレーションの有効化

システムの設定によっては、システムのデュアルモニターエミュレーション（分割画面表示）機能を設定できます。デュアルモニターエミュレーション機能を使用すると、こちら側と相手側の両方を 1 台のモニターに表示できます。

デュアルモニターエミュレーションを有効にするには、次の操作を行います。

1. [通話の発信] 画面から **[システム]** を選択します。
2. [システム] 画面で **[ユーザー設定]** を選択します。
3. **[次へ]** を選択して、詳しい設定を表示します。
4. **[デュアルモニターエミュレーション]** までスクロールし、リモコンの ボタンを押してオプションを有効にします。
5. **[ホーム]** ボタンを押して変更を保存し、[通話の発信] 画面に戻ります。

デュアルモニターエミュレーションには、複数の表示レイアウトがあります。レイアウトを変更するには、リモコンの **[PIP]** ボタンを押します。

VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用

VSX 3000 システムを使用している場合に、VSX 3000 の XGA ディスプレイをコンピュータのモニターとして使用すると、デスクトップや会議室のスペースを節約できます。

通常は、出荷時のデフォルト設定を変更する必要はありません。ただし、モニターのデフォルト設定を変更する必要がある場合は、VSX 3000 モニター前面のボタンを使用します。**[MENU (メニュー)]** ボタンに続けて **[SELECT (選択)]** ボタンを押し、必要に応じて **[ADJUST (調整)]** ボタンを押して設定を調整します。

作業を開始する前に

コンピュータの画像の解像度およびリフレッシュレートの設定が、次のいずれかの値になっていることを確認します。

解像度	リフレッシュレート (Hz)
VGA (640 x 480)	60, 72, 75
VGA (720 x 400)	70
SVGA (800 x 600)	56, 60, 72, 75
XGA (1024 x 768)	60, 70, 75
SXGA (1152 x 864)	75
SXGA (1280 x 960)	60
SXGA (1280 x 1024)	60, 75
Macintosh (640 x 480)	67
Macintosh (832 x 624)	75

VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用するには、次の操作を行います。

1. VSX 3000 システムに付属するセットアップシートの説明に従って、コンピュータを VSX 3000 システムに接続します。
2. VSX 3000 システム前面の **[Input (入力)]** ボタンを押して、コンピュータのコンテンツの表示とビデオ会議システムのビデオ画像を切り替えます。

VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用しているときに通話に応答するには、次の操作を行います。

1. 着信音が鳴ったら、システム前面の **[Input (入力)]** ボタンを押してビデオ会議システムに切り替えます。

   90 秒以内に応答します。90 秒を超えると自動的に通話が拒否されます。

2. リモコンの **[通話開始]** ボタンを押します。

VSX 3000 システムをコンピュータのモニターとして使用する場合は、通話への応答を手動で行うようシステム設定することをお勧めします。こうすれば、発信側から不意にこちら側の様子を見られたり、音声を聞かれたりすることはありません。

システムで手動応答が設定されているときは、通話を受信すると着信音が鳴ります。通話に応答するには、手動でビデオ会議システムに切り替えて応答します。手動で応答しない場合、通話は接続されません。

ビデオ会議のヒント

以下に示すヒントは、ビデオ会議を円滑に行うための参考としてお読みください。会議を成功に導くための一般的なヒントのほか、画像や音声の品質向上やドキュメントの表示などに役立つ簡単な指示が記載されています。

会議を成功させるためのヒント

- 通話先のビデオ番号が手元にあるか、ディレクトリに記載されていることを確認します。
- 通話を開始する前にカメラのプリセットを設定し、通話中にすぐにプリセットを利用できるようにしておきます。こちら側のプリセットは 100 か所まで設定できます。相手側システムによっては、相手側システムに保存されているプリセットを利用することもできます。
- システムの用途を拡張するには、周辺機器を追加します。たとえば、ビデオテープを再生する場合は VCR を、コンピュータのデータを共有する場合は VisualConcert VSX または ImageShare II を追加できます。毎回会議の前には、周辺機器を接続してテストを行ってください。

画像の品質を上げるためのヒント

- 鮮やかな色の衣服、全体的に明るい色や黒っぽい色の衣服、ちらちらする模様（細かいチェック柄や細い縞模様など）の衣服などは着用を避けます。画面では、明るいパステル調や落ち着いた色合いが最もきれいに見えます。
- 室内に窓がある場合は、カーテンやブラインドを閉めます。日光が差し込むと、室内の照明と競合する場合があります。
- 自然な動作で発言します。
- カメラを調整する場合は、テーブル、椅子、壁、光、床などではなく、参加者が画面に表示されるようにします。

音声の品質を上げるためのヒント

- マイクに向かって普通の声量で話します。大声で話す必要はありません。
- こちら側の音声が聞こえるかどうかを相手側に確認します。また、相手側の音声がこちら側で聞こえるかどうかを確認するため、自己紹介してもらいます。
- 会議中にマイクを動かすときはミュートに設定します。
- 音声にはわずかな遅延があるため、相手が答えるまで少し待たなければならない場合もあります。
- 一般の会議と同様に、雑談を慎みます。

VSX セットトップシステムまたは VSX コンポーネントシステム

- 会議中は、参加者の前のテーブルにマイクを置きます。広い室内で会議を行う場合は、マイクの追加を検討します。
- ビデオ会議を実施する部屋がステレオ音声の使用に対応している場合、マイクはシステムのセットアップ時に設置および設定を行います。マイクの位置は動かさないでください。ステレオ効果が低下する原因になります。
- マイクの上やマイクとの間に紙やその他の物体を置かないようにします。また、音を立てて紙をさばいたり、マイクやテーブルをたたくことも避けます。

コンテンツ表示のヒント

- Microsoft® PowerPoint、Project、Word など、ドキュメントの表示に必要なアプリケーションがコンピュータにインストールされていることを確認します。
- プレゼンテーションをスムーズに行うために、ファイル、ビデオテープ、DVD を表示する準備をしておきます。ビデオ通話を開始する前にテストを行ってください。